結 ゆいっこ 盛岡新聞
ぼくらの復興支援 IWATE YUICCO
vol.5 発行日／2011.10.31
編集・発行／いわてゆいっこ盛岡
〒020-0866
岩手県盛岡市本宮 5-10-20-120 号棟
Tel：090-4476-7083
Mail…… morioka@yuicco.com
Blog …… http://yuicco.com
Twitter …… iwate_yuicco

活動報告

仮設住宅修繕作業

仮設住宅には多くの問題点があります。立地条件、構造の問題、また岩手の環境との適応…など。生活の不便の軽減につながればと思い、ゆいっこ盛岡では9月から新たな活動のひとつとして、仮設住宅での修繕作業を開始しました。場所は、宮古市の高浜地区です。

9/4（1回目）はそのひとつでもある、玄関周りの問題です。何が問題かというと、屋根の長さが足りていません。そのため、雨が降ると玄関が水浸しになり、冬は足元が凍りついて大変危険です。仮設住宅にはお年寄りも多く、足が悪い方にとっては玄関を出るのも一苦労です。また、玄関を出て目の前に、向かいの家の窓があるので、家の中が丸見えになってしまうそうです。そのような状況を解消するため、屋根の隙間をふさぎ、玄関正面に板を取り付けました。これで雨風を防ぎ、また、ブラインドとなってプライバシー保護の役目も果たします。

▲地元の方々との連携作業。慣れない手つきも作業が進むたびに頼もしくなってきました

今回の活動はゆいっこ盛岡としても初めてだったので、手さぐりで進められていきました。試行錯誤を繰り返し、午前中をかけてやっと1軒分が完成、という状況。その後は、一軒目のノウハウがあるので、40分程で作ることができました。今回は2軒で作業終了となりましたが、玄関周りの不備は高浜地区だけでも50軒あります。また、全国どこの被災地でも活用できるように考えられている仮設住宅は、岩手の環境に完璧にマッチしているわけではありません。冬を迎えるまでにやらなければいけないことはたくさんあると実感した1回目の作業となりました。ちなみに、この日のお昼は宮古の方の手作り料理を頂きました。古代米のおにぎりとおうどん、おかわりもあって、お腹いっぱいまでおいしく頂きました。

そして、9/18（2回目）の高浜地区の仮設住宅での修繕作業は、5人での活動となりました。内容は、ひさしの取り付けです。人数からいくと、5～6軒が限界だと思っていたのですが、なんと28軒の修繕を行うことができました。といいますのも、宮古の方々のご協力があったからです。修繕に使う建材を用意して頂いている、佐々木さんとその息子さんが、ひさしをあらかじめ作っておいてくださいました。そのひさしを、私達が玄関に取り付ける、という流れです。ひさし作りから始めていたら、28軒なんてとても終わりません。何時間もかかる作業です。大変な作業を行って頂きまして、本当にありがとうございました。

残り8軒というところで時間切れとなり、活動は次回に繰り越されました。最後までやってしまいたかった…という思いの中、「祝日だし、明日もやろうか」という提案で、無事ゆいっこメンバーで完了することができました。

▲完成!!これで雨が降っても大丈夫。玄関まわりの心配はなくなりました

このように仮設住宅では、同じような問題を多く抱えています。宮古市では、468軒（9/5時点）が確認されているそうですが、実際は把握できていない場所もあります。個人でやられている方々も多くいらっしゃるとの事。でもお年寄りだけの世帯は・・・?それを考えると胸が痛みます。仮設住宅の修繕は冬を迎える前に終わらせてしまいたい、という目標を掲げておりますが、活動人数、資金面での問題もあり、難航しているのが現状です。

そんな中、嬉しいニュース。札幌の『カリタスジャパン』さんから、30万円の修繕用資材の購入資金を寄付して頂きました。これで目標にぐっと近づくことができます。本当にありがとうございました。岩手の冬はとても寒く、仮設住宅での生活はより厳しいものになります。そして、沿岸の風はとても冷たいです。少しでも良い生活環境にしたい!!現在の活動はここにつながります。

※その後、仮設住宅のひさしは、国によってつけられることになりました。今後は、次のニーズである「縁台の設置」に取り組んでいきたいと思います。

雨でぬれる玄関 悩み解消
盛岡の団体 宮古の仮設にひさし

盛岡市の震災復興支援団体・いわてゆいっこ盛岡（藤原慧代表）は4日、宮古市高浜の仮設住宅に、玄関スペースの足場や手すりが雨でぬれないようにするためのひさしを取り付けた。

同地区の仮設住宅には軽などが置ける奥行き約1㍍の玄関スペースがあるが、大投式トタン屋根の突き出した部分は長さ約85㌢と短く、スペースに置いた物が雨でぬれてしまうのが住民の悩み。

ゆいっこ盛岡のメンバー6人とこの仮設住宅に住む建材業佐々木清明さん（64）が協力し、44戸あるうち2戸でモデル的に作業した。

寸法を測って木材の骨組みを作り、プラスチック製のひさしを丁寧に設置。住宅そのものには「加工」できないと決まりのため、壁にはくぎを打たないなど配慮した。

佐々木さんの妻トシさん（65）は「（トタン屋根が短いせいで）家の中まで雨が入ってくるので玄関の戸を開けられない。ひさしがなければ、冬場は戸が凍り付くこともありそう」と懸念しながら作業を見守った。

これまで多様な被災地支援を行ってきたゆいっこ盛岡。藤原代表（32）は「仮設住宅にも支援の手を広げたいと思っていた」と熱心に作業。今後も仮設住宅にひさしを取り付ける活動を行う考えという。

仮設住宅の玄関部分に取り付けられたひさし＝宮古市

▲9/5の岩手日報に、ひさし修繕の記事が載りました。仮設住宅の問題点を多くの方に知っていただくひとつのきっかけになったと思います

仮設住宅集会所のカフェボランティア＋葛巻町「森と風のがっこう」宿泊研修　（10/15～16）

10月15日(土)、宮古市内にて2チームに分けてボランティア活動、そして葛巻「森と風のがっこう」での宿泊研修をしてきました。東京から4名の有志を加え、1泊2日のゆいっこ盛岡のボランティアツアーです。宮古での活動内容は、「貝磨き」そして「仮設住宅集会場でのカフェボランティア」です。

▲同じ貝なのに様々な表情をみせてくれます。1つ1つ風合いが違うのが個性となり、本当にステキです

まず「貝磨きボランティア」とは、宮古市の復興プロジェクト「かけあしの会」の方々が手掛けるプロジェクトです。アワビの貝殻を使ったネックレスや携帯ストラップ等を作るお手伝い。その名も「虹の祈り」プロジェクト。（※「かけあしの会」…被災者の皆様のために、スピードを上げて行動し「目となり、耳となり、口となり、共に動き考える」愛のある経済活動を進めるグループです。）ところで、アワビの貝の裏側って見たことありますか?パールホワイトをベースに緑、茶色、ピンクっぽい部分があり、確かに「虹」の様な色なんです。私達はその工程の中で、貝の表面を3種類の紙やすりと、その他のアイテムで削り、滑らかに表面を整える作業を行いました。この日は、秋田から外国人の英語の先生達も4名参加。はじめ、地元の皆さんは『英語が話せない!』とちょっと焦った様ですが、皆さん流暢な日本語を話せる方々でした。私も含め、8割日本語でワイワイ作業を進めて行きました。また、東京からの参加者の方が英語が非常に堪能で、通訳をして下さり、本当に助かりました。また、地元の漁師さんは、機会を巧みに操り、黙々と作業をされていました。「かけあしの会」の皆さま、本当にありがとうございました。

▲手前のお2人は和弓とアーチェリーの経験者との事。話がとても盛り上がっていました

さて、「かけあしの会」さんでは、その他色々な復興ギフトを作ってます。そしてこのたび、11/6の『もりあげ↑マーケット@盛岡肴町アーケード内』にて、こちらの商品を購入するチャンスができました。同時に、貝磨きボランティアも体験することができますので、ぜひいらしてください。

そして別チームは、宮古市西が丘と近内の仮設住宅の談話室にお邪魔しました。それぞれの談話室には、ボランティアセンターの職員の方が1名ずつ当番で入られていて、普段は住民の方々の様々な対応をされている、との事。職員は地元の方でしたが、宮古市内に10数か所ある談話室を毎日サポートする労力のせいか、ボランティアセンター内でも連絡のやり取りがスムーズにいっていない部分もあるようでした。日々のご対応、本当にお疲れ様です。

西が丘の仮設住宅は、近くにスーパーがあったり、子どもが遊べる広場があったりと、環境としては他の仮設住宅よりは若干すごし易い雰囲気ではありました。職員の方に1件ずつ声をかけて頂き、午前中は、集まって頂いた方々と現在の生活や震災のお話をしました。談話室の外でご年配の女性の方が、犬2匹と日向ぼっこをしており、談笑していたのですが…、震災直後、避難所に入った際、犬を避難所の入口に入れさせてもらい、3月の冷え込む寒さの中、一緒に入口で寝た時もあったそうです。何気ない会話をしているこの時間が、平和で穏やかな空間であることを実感しました。宮古の仮設住宅には、約半数に談話室や、自治会が設置してありますが、目の届きにくい方々への支援を続けていきたいと考えております。

◀白い元気な犬と丸々太ったつぶらな瞳の老犬でした

その後、近内の仮設住宅へと移動。こちらはお年寄りではなく、3人の子どもが談話室にいました。お話を伺ったところ、普段から決まった子ども達が数名利用するのみ、ということで同じ談話室でも使用のされ方、使用する年代がそれぞれ違うことを知りました。私がこの談話室に入るやいなや男の子が近寄ってきて、瞬時に談話室はプロレスリングと化してしまいました。内陸の子どもに比べ、元々活発な子どもが多く、更に、生活などの環境変化により、ストレスが溜まっている部分もある様です。

老若男女問わない方々が利用することが考えられる談話室。そこに立ち入るボランティアも、様々な事を想定して対話の技術を高める必要を感じます。これから10年以上宮古市とお付き合いしていくであろう、いわてゆいっこ盛岡。今後の支援活動の在り方と方向性を考える上で、非常に貴重な経験をさせて頂きました。

▶同じ談話室でも、使用のされ方、使用される年代も様々…。私達ができることを考えるきっかけになりました

宮古での活動後、葛巻町の「森と風のがっこう」へ移動。携帯が繋がらない、別世界への入口となる長いトンネルをくぐるのは今回で2回目。その日の夕食は、「地域資源プロデューサーのイッシー」が作ったバングラディシュカレーと、「森と風のがっこう」スタッフが作って下さったタイのグリーンカレーを、「右手で」頂きました。よくテレビで、指で食べ物を食べる映像を見たりしますが、指のみというのは全くの初体験でした。思ったよ

▲指だけで食べたカレー。指から伝わる美味しさいっぱいで、心から「頂きます」と思えたひとときです

り、ご飯が熱い!!そして、慣れるまでちょっと食べづらかったけど、手で食べることから感じる美味しさがありました。指から伝わる食べ物の温度、質感、柔らかさ。普段は口に運んだ後の感覚しかありませんが、これに指からの感覚が加わり、食べ物を、より“食べ物”として感じとることが出来ました。食事の後は、談笑チームとお風呂チームに分かれました。空き缶を敷き詰めながら作った風呂釜は、とても保温性が良く温まります。

そして迎えた朝、裏山の散歩にでかけました。裏山には子供達がここで過ごした証が数々残されており、進化し続ける「森と風のがっこう」を感じました。その後、薪割りと味噌汁チーム、掃除と犬の散歩チーム、朝食準備チーム、それぞれが朝の仕事をしました。この仕事は序の口ですが、自然エネルギーを中心としたスローライフ。実はとても忙しく、やる事がいっぱいあります。朝食は、釜で炊いた粒の立ったご飯、具の入れ過ぎた味噌汁、ほうれん草のごま合え、豆、そしてここで飼っている鶏の採れたて卵。「頂きます」に、感謝の意を込めて食事をする事は、普段ありませんね。朝食後はカフェでおいしいコーヒーを飲みながらゆっくりとした一時を過ごしました。

そして校舎に戻り、吉成さんのお話を伺いました。今回、普段自然エネルギーに興味を持ちながら勉強をしている方々が集まりましたが、その考えの延長線上、そこに吉成さんがいらした気がします。線と線が繋がった自分の考えと「森と風のがっこう」の体験。東京から来ているメンバーの中でも、その“出会い”に感動を覚えている方もいらっしゃった様です。

▲参加者の方々も自然エネルギーに興味をもたれていたので、吉成さんとのお話はとても有意義な時間となりました

お昼は、自分達で捏ねて伸ばした生地を釜で焼いた自家製ピザ。伸ばして、トッピングをのせて、焼くだけですが、釜で焼く楽しさは、やってみると本当に面白く、そして焼きあがったピザは、人生最高のピザでした。充実した時間を過ごし、再会を誓い、黍原さんはじめとするスタッフの方々に大きく手を振りながら、枯れ葉舞う「森と風のがっこう」を後にしました。帰る途中、急遽予定になかった葛巻町の風車見学の為に、バスで山を登りました。強い風に吹かれて30mもある羽を回し続ける迫力ある風車は、圧巻の一言でした。大きな枠組みの中でのマクロの自然エネルギー、そして実生活まで落とし込んだスローライフの自然エネルギー。古代ギリシャの哲学者は言いました。「哲学とは実践である」。今回のツアーで深めた自然エネルギーへの更なる理解。これを実生活に落とし込んで初めて、「森と風のがっこうに行ってきた」と言える様な気がします。次回また、志を同じくする方々と、感動を共有したいと思います。

◀生地から捏ねて焼いた自家製ピザは、釜で焼くことでさらに美味しさが加わり、最高の出来でした

ここで、体験後に頂いた感想をお寄せ頂きましたので、ご紹介したいと思います。

★阪神大震災で3ヶ月ほど現地でNGOを立上げ運営した経験ありますが、当時と比べると今回の東日本大震災は、被害が広範囲に渡り、復興の速度にも地域格差ばらつきがあり、あわせて放射能汚染という問題もあり、長期間復興に要すると感じました。ただ共通しているのは、被災者の方々の自立、メンタルケアといった地元中心に長期的に関われるプログラムと、今回のような貝磨きや修繕などの作業でスポット的に対応できるプログムに分けた方が良いと思います。ボランティアに関わる人には時間、経済、物理的な制約にあわせて、それに参加する動機も様々だからです。

★ボランティアの役割も次のステージに入っていて、今回のツアーは支援する側、支援される側という立場ではなく、一緒に何かを創ろうとする試みでした。実際に被災された方々からお話を伺い、どのような社会を作っていくか、大きく言うと日本の在り方を捉えなおす機会となり、長く広い視点で考えていく必要性を感じました。ゆいっこの普通の人たちが、楽しみながら、でも実は皆熱い気持ちを持って活動しているのは、長くやっていく大事なポイントと感じました。

★今求められている自然エネルギーへのスムーズな転換という方向性にツアー企画が合っていたので興味深かった。いかに効率のよい省エネ製品を創り出し、いかに自然エネルギーの安定供給を創り出すか、このバランスが成り立ってこそ原発依存から脱却するきっかけになるのでは。

★個性豊かなゆいっこスタッフとの交流が楽しく、サークルのような雰囲気でした。岩手の人々の様々な想いと人柄、自然に触れ、同時に復興に向けての課題を考えさせられた2日間になりました。

東京からツアーに参加してくださった、温井さん、坂本さん、鹿野さん、及川さん、ありがとうございました。

▶参加者全員でパチリ。この中は小さな教室のようになっています

あねさんショップ

以前から募集しておりました「着物ハギレ」。ついに、宮古市でハギレを取りまとめていらっしゃる方より小物のショップ開店のお知らせが来ました。「今回の被害に対し全国から支援を頂いて感謝しております。でも、いずれは自立したいと願い今度の着物生地での小物作りと販売を始めました。10月1、2日の宮古市産業祭りでの販売が始まりです。」

お店の名前は「あねさんショップ」。「『あねさん』とは宮古弁で女性の事です。因みに年配の方は、昔のあねさんと呼ばれます(笑)」

ということで、10月1日(土)～2日(日)に開催された「第17回宮古市産業まつり」に、あねさんショップ販売ブースの手伝いに行ってきました。

会場は宮古市民総合体育館。船の形をしたマリンコープDORAの隣です。今回は復興の気持ちを込め、昨年までよりも大規模なお祭りになったようです。

いつも私達と一緒にボランティア活動をしてくださっている地元の「あねさん」達の商品がずらりと並びました。全て手づくりです。出店場所にも恵まれ、午前中から盛況でした。

今回の商品は、以前よりゆいっこ盛岡のblogやツイッター等でもご支援をお願いしていた着物のハギレで作られた小物などです。例えば…メガネや通帳、何を入れてもOKな万能小物入れ等、ご支援頂いたハギレで作っています。そして、ティッシュケース。絹の着物の布を使用しているため、非常に高級感があり、思わずバッグの中にしのばせたくなる一品。プレゼントにも最適です。

今回一番人気だった商品は、箱ティッシュケースでした。お一人でいくつも購入されてる方もいらっしゃいました。その他、のれんなど生活空間に置くものが良く売れていました。また、巾着や花瓶置き、コースター、掛け軸(お気に入りの絵葉書を飾るミニサイズのもの)など多種多様な商品がお店を彩ってました。

本当に多くの方が産業まつりにいらっしゃってました。

知り合いを見つけては声を掛け合い、楽しそうに話す場面があちこちで見受けられました。また、外は快晴。とっても気持ちの良い日でした。ただのんびり外のベンチに座って、流れてくる緩やかな音楽を聞いてるだけでも気分転換になりそうな感じがしました。

多くのご支援頂いた皆様、宮古のあねさんたちの頑張りで、予想以上に沢山の商品を買って頂くことができました。また今回の出店でお客様からの反応も知ることができたのではないでしょうか。

私達も、今回もまた達成感とともに一緒に楽しく時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

▶ハギレがこんなにステキに変身。味がありますね

引き続き「着物生地」のご支援お願いします。

「絹」の着物生地のハギレ、反物、着物や帯をお願いします。美品であれば新品でなくともよろしいです。おゆずりいただける方は、ゆいっこ盛岡までメールまたは電話でご連絡ください。宮古市の送付先をお知らせいたします。(送料はご負担いただければ幸いです)

支援金をありがとうございました!

【支援金総合計(10/21現在)】 ¥747,601

【支援金をいただいた方(8/27~10/21)】

近藤様、渡邊様、眞鍋様(京都府)、ロクハラ様、じゃじゃおいけん様、hina取引先作家一同様(岩手県)、舘鼻様(岩手県)、杉山様(岩手県)、八重樫様(岩手県)

支援金箱設置ご協力ありがとうございました!

●京都市ハーレーダビッドソンカスタムショップTNT cycle様
●志士の会2003−kyoto事務局様(京都府)

着物ハギレ支援ありがとうございました!

宮古市で手作り小物を制作販売している「あねさんショップ」さんにお送りしている「着物ハギレ」のご支援をいただきました。お名前を掲載させていただいている方の他にも、直接お送りいただいた方もいらっしゃいます。本当にありがとうございます!

上村様、山田様(京都府)、印藤様(三重県)、高橋様、斉藤様、伊藤様、近藤様、平山様、大芦様、神村様、眞鍋様(千葉県)、荒木様(京都府)、長野県飯田市社会福祉協議会様

活動記録(8/27～10/21)

月	日(曜日)	活動内容
9	4(日)	●仮設住宅修繕(宮古市高浜地区)
	17(土)	●仮設住宅への敷きパッド配布 ●宮古秋祭りボランティア
	18(日)	●小岩井クラフト市ツアー ●仮設住宅修繕(宮古市高浜地区)
10	1(土)	●宮古市産業まつりボランティア
	2(日)	●さんま祭り (宮古市近内雇用促進住宅)
	15(土)～16(日)	●宮古市近内仮設住宅集会所カフェボランティア&貝磨きボランティア+葛巻町「森と風のがっこう」宿泊研修

支援金募集しております

被災地への支援活動に使う支援金を随時募集しております。無理のない範囲でご協力いただければと思います。振込は下記口座までお願いします。

岩手銀行　津志田支店　店番／**070 普通預金**
口座番号／**2065288**　口座名義／**ゆいっこ盛岡支部**

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりpdfでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。

助成 日本財団 The Nippon Foundation